

沖縄協会だより

2024.8

No.32



工藤和男 作

沖縄の漁場 号数：F100

工藤和男 昭和8年 大分県生

画歴：武蔵野美術大学卒。創元展出品、安井賞候補展出品、日仏現代美術展出品、日展入選、日展特選、紺綬章。
日展審査員、創元会理事長・審査員、日展会員・日展評議員。

制作意図：私は国内各方面の漁場と、そこで働く人びとの姿等を描いてきましたが、沖縄の海を主題にしたのは今回が初めてであります。さんさんと照りつける太陽の下で真黒に日焼けして働く漁師の姿は大変たくましく魅力的でした。その背景はエメラルドの海が広がり、白い浜辺には、いかにも南国沖縄の情緒を表しています。東北方面や北海道の冬の寒さのきびしさを描いた私にとって一度は暑い南の地方を描いてみたいと思っていただけに、その感激も大きく意欲わいての制作でした。

額サイズ：縦×横×厚【184×152×9.5 cm】

(昭和61年1月25日寄贈)



沖縄平和祈念堂美術館
所蔵絵画紹介

沖縄協会は、沖縄が本土に復帰するまでの間、各種の援護活動を行った特殊法人南方同胞援護会(昭和31年～47年5月)の後を受けて、昭和47年9月20日に設置された内閣府所管の公益法人です。新たに設立した財団法人沖縄協会は、南方同胞援護会の実績と経験を活用して、沖縄の振興施策に積極的に協力し、平和で豊かな沖縄県の建設に寄与してまいりました。平成23年(2011)4月1日、沖縄協会は内閣総理大臣より公益財団法人として認定を受けて「公益財団法人沖縄協会」として新たな一歩を踏み出しました。これからも、沖縄県の健全な発展と幸福な社会形成に役立つ事業を行いながら、沖縄平和祈念堂を管理運営することで、平和で豊かな沖縄県の建設に貢献していきます。



尖閣遭難事件と決死隊

おきなわ離島応援団理事長 今井恒子

今井恒子(いまいつねこ) 石垣島出身。
株式会社フロツサ代表取締役(2001年、
IT会社設立)。現在、関東沖縄IT協議
会会長、一般社団法人「おきなわ離島応援
団」理事長(※おきなわ離島の子どもたち
の支援活動を行う) 著書「ウミンチュの娘」
を角川書店から出版。

この度、「沖縄協会だより」の寄稿依頼があり、テーマは沖縄に関する事となら良しとのことだが、何を書こうかと思いついていたら、「台湾有事なら沖縄離島12万人を本土へ」の政府避難計画の新聞記事が目にとび込んできた。避難計画の「避難」という言葉は、「疎開」を意味する言葉である。

太平洋戦争時には石垣島の住民は台湾に疎開を命じられ、幼かった両親も台湾に疎開したと話していたのを思い出した。

避難計画は政府が台湾有事の対策として、先島諸島5市町村(宮古島市、石垣市、竹富町、与那国町、多良間村)の住民を九州・山口の8県が受け入れ先となり、来年2月までに輸送手段、宿泊所手配、食料備蓄等の初期計画の策定に向けて進めているようだ。島の住人たちに向けては避難時の説明会が開催されており、きな臭い感はない。以前、知人に勧められて読んだ『沈黙の叫び』尖閣列島戦時遭難事件』を思い出した。2006年に石垣島の南山舎から出版された本である。

太平洋戦争末期に日本軍の命令で石垣の住民が半ば強制的に台湾に疎開させられたが、台湾に向かう航行中に疎開船が米軍機に襲撃され、生き残った人たちの証言の本である。

一終戦間近の1945年6月30日、老人や婦女子約180名を乗せて石垣から台湾に向けて出港した疎開船2隻(第三早丸、第五早丸)が尖閣列島近海で米軍機に発見され襲撃を受け、第五早丸は炎上沈没し、第二早丸は機関故障で尖閣列島の魚釣島に漂着した。襲撃を受け多くの死者や負傷者が出た様子が記されており、その中には機銃で撃たれた妊婦もあり、お腹から出た胎児と自分の内臓をお腹の中に戻そうとして息絶えた様子も証言されていた。九死に生を得て、無人島の魚釣島に漂着した生存者たちにとって生き延びるのも地獄だった。1か月以上に及び過酷な環境の無人島での集団生活は食べる物も底をつき、栄養失調、餓死者も出て心理状態もおかしくなる者も出てきた。このまま

では全員が死を待つしかない、他の島へ救助してもらう方法を協議した。すると、遭難者の中に船大工がいて、難破船の残骸から板やクギを利用して小舟(サバコ)を造ることとなり、着手後、10日間で舟は完成した。そして、石垣島に連絡に行く「決死隊」が結成された。決死隊のメンバーには9人が選ばれた。その決死隊のメンバーの名前と顔写真を覚えて思わず大きな声を張り上げた。なんと、伯父の上原亀太郎(当時22歳)を発見したのだ。父の兄で石垣島で漁師(ウミンチュ)をしていた伯父。近所に住んでいた時代もあり、私にニックネームを付けてくれるほど可愛がってくれた伯父だった。だが、口数の少ない伯父から尖閣遭難事件のことを聞くことはなかった。

一魚釣島から石垣島まで180キロ。上空にアメリカ軍機が近づくと、船を転覆させて身を隠し、軍機が去るとまた必死に舟を漕いだ。まる2日間、飲み水もなく栄

養失調の身体で最後のちからを振り絞り舟を漕いだ。ただ、ひたすらに舟を漕いだ。そして、ついに川平の底地湾に到着したのだ。決死隊のおかげで魚釣島に遭難した人々は助かった。遭難者が石垣を出発したのが6月30日、帰島したのは8月19日だった。

180人の疎開者の中、生存者は130人で50名が命を落としたと記録された。遭難事件から年月が経った2002年7月、石垣の新川舟蔵の地に尖閣列島戦時遭難死没者慰霊之碑が建立された。亡くなった方々の御霊を慰め、恒久平和を願い、悲惨な遭難事件を風化させず後世に伝える為に生存者や遺族が中心になり建立されたのだ。

今また、沖縄離島の住民が「避難計画」のもと疎開しなければならぬとしたら、悲惨な戦争が繰り返されるということだろう。私たちは、この事件を教訓として決死隊が命がけで船を漕いだように平和に向けて舟を漕がなくてはならないと思う。愚かな戦争は二度と繰り返してはいけないのだ。

★第44回「いもまつり」も琉球芸能奉納

「いもまつり」の5月5日、第44回「いもまつり」でも琉球芸能奉納を開催した。子ども達の健やかで心豊かな成長を願い、今できる芸能をとおして平和の尊さ・悲惨な戦争を考え学ぶ機会をつくるのが目的。奉納に先立ち、出演者と堂内すべての方々で戦没者に追悼の思いを寄せ、世界の恒久平和を祈念して黙とうを捧げた。つづいて沖縄平和祈念像の前で、3歳児から小・中・高校生に沖縄県立芸術大学琉球芸能専攻の学生・卒業生・教員の総勢98人が琉球舞踊・器楽合奏・空手演武・琉球古典音楽の数々を奉納献奏した。出演者の熱演は、まつりにつめかけた観衆の心に嬉しさと喜び、大きな感動を与えた。訪れた観衆は約250人。



琉球舞踊奉納のようす

★沖縄平和祈念像「浄め」

6月14日、当協会は恒例の沖縄平和祈念像「浄め」を行った。この浄めは6月23日「慰霊の日」と令和6年沖縄全戦没者追悼式「そし

て6月22日に行う「令和6年沖縄全戦没者追悼式前夜祭」を厳粛な気持ちで迎えるために実施しており、毎年慰霊の日の前と年末の2回実施している。今回は沖縄バス(株)・東陽バス(株)のガイド、沖縄県工芸振興センター職員・講師・漆芸研修や他部門の研修生の皆さん、そして、平和祈念像の制作スタッフであられた糸数政次氏(当協会理事・浦添市美術館長)、同美術館職員の方が参加し、当協会役員とあわせて29名で実施した。参加者は戦没者に対する慰霊と世界の恒久平和を願い、平和祈念像の埃を払い浄めた。また、県内外の学校や諸団体から奉納された折り鶴の整理を行った。



奉納された折り鶴を整理する参加者

★第9回ぬちぬぐすーじさびらコンサート in 摩文仁

6月15日、平和の礎に刻銘された24万余の人々の追悼と恒久平和の祈りを世界に発信する「第9回ぬちぬぐすーじさびらコンサート in 摩文仁」(主催:クワイエムコンサート実行委員会、共催:沖縄県立芸術大学、沖縄協会)が開催され、約200人余りの聴衆が訪れた。このコンサートは、沖縄戦後、生き残った我々が元気を出して頑張ろうと励まし、勇気づけ、沖縄の復興に尽力した小那覇舞天(小那覇全孝氏)の言葉「ぬちぬぐすーじさびら(命のお祝いをしましよ)」をタイトルに、あらためて戦没者に深く思い

をいたし、戦争、基地のない平和な沖縄に向けて努力していく決意を込めて開かれている。演目は、モーツァルトの「レクイエム」とアヴェヴェルム・コルプス。沖縄県立芸術大学オーケストラ・ソリスト、沖縄レクイエム合唱団の合計66人によって、厳やかに奏でるオーケストラの演奏と堂内に響き渡るソリストと合唱の歌声に聴衆は深く魅了され感動とともに惜しみない拍手を送った。

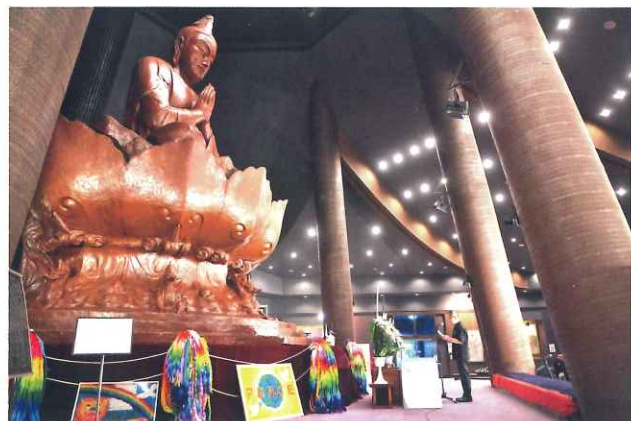


沖縄県立芸術大学オーケストラ・沖縄レクイエム合唱団

★令和6年沖縄全戦没者追悼式前夜祭

6月22日、当協会は令和6年沖縄全戦没者追悼式前夜祭を開催した。この行事は、慰霊の日と沖縄県・沖縄県議会在主催する沖縄全戦没者追悼式をより意義あらしめるため、沖縄県、(一財)沖縄県遺族連合会、(公財)沖縄県平和祈念財団の共催を得て毎年開催している。第一部式典では、来賓・遺族・琉球古典音楽献奏者・琉球舞踊奉納者・一般の方々を参列するなか、「鎮魂の火」の献火、「平和の鐘」の献鐘を合図に黙とうを捧げ、代表者による献花が行われた。次に、清水治会長より「私達は、現在の生活が幾多の尊い犠牲の上に築かれたことを決して忘れず、戦争への反省と世界平和への決意を新たに、戦没者追悼の象徴である沖縄平和祈念堂から全世界の人々に、恒久平和の

実現を訴え続けていくことを誓う」と鎮魂(じづたま)のことは述べた。つづいて第一部は、前夜祭の主題を表す琉歌三首を歌唱する琉球古典音楽「瓦屋節 金武節 辺野喜節」の合同献奏を琉球古典音楽湛水流保存会・琉球古典音楽安富祖流絃聲会・琉球古典音楽野村流音楽協会・琉球古典音楽野村流保存会・琉球古典音楽野村流伝統音楽協会と琉球箏曲興陽会・琉球箏曲保存会の代表の方々で行われた。次に琉球古典音楽独唱献奏が行われ、琉球古典音楽湛水流保存会の渡慶次哲三さんの「早作田節(下出)」、琉球古典音楽安富祖流絃聲会の渡名喜康広さんによる「伊集早作田節」を献奏いただいた。つづいての舞踊奉納は、琉球舞踊界の第1線で活躍する舞踊家3名にお願いした。演目は、琉球舞踊太主流二代目家元の皆川律子さんが古典舞踊・女踊り「稲まつん」、親泊本流親扇会三代目家元の親泊久玄さんが古典舞踊・男踊り「魔(ぜり)」、琉球舞踊太主流華の会代表の孤島丘奈さんで雑踊り「鳩間節」。戦没者慰霊と恒久平和を祈る心を込めての奉納は、琉球舞踊が醸し出す美しさと品格を漂わせ、参列者を魅了し深い感動を与えた。



沖縄全戦没者追悼式前夜祭のようす

★沖縄慰霊の日

「平和の魂ーオオゴマダラの放蝶」

6月23日、令和6年沖縄全戦没者追悼式前夜祭関連行事の「平和の魂ーオオゴマダラの放蝶」を玄関前で実施した。蝶のことをギリシャ語でプシユケ(「魂の意」ということから、平和祈念堂の蝶園で平和の「魂」としてオオゴマダラを育て、戦没者を追悼し世界平和の実現を祈る沖縄平和祈念堂の使者として、これまで慰霊の日には摩文仁の空へ放蝶を実施している。放蝶に先立ち、参加者全員で正午にあわせて平和の鐘の献鐘、戦没者慰霊と恒久平和を祈る黙とうを行った。つづいて、ガールスカウトの児童生徒や関係者(19人)によってオオゴマダラ蝶20匹の放蝶が行われた。その後、ガールスカウトの皆さんは堂内に移動し、参加にあたり心を込めて折り上げた折り鶴を平和祈念像に奉納した。



ガールスカウトの皆さんによる放蝶

★岸田文雄内閣総理大臣来堂

6月23日、岸田文雄内閣総理大臣が沖縄平和祈念堂を訪れた。岸田総理は、沖縄県沖縄県議会主催、当沖縄協会共催の「令和6年沖縄全戦没者追悼式」に参列のため来沖し、国立沖縄戦没者墓苑の参拝につづいて平和祈念堂に到着された。当協会では岸田総理を清水治会長と上原良幸副会長、新垣昌頼専務理事が出迎えた。また、正午の黙とうに合わせて行う平和の魂ー放蝶セレモニーに参加するガールスカウトの児童生徒や関係者も出迎え、岸田総理も一同へ気さくに声をかけられた。



岸田総理来堂のようす

協会関係事業他

募集案内など

★第46回(令和6年度)

沖縄研究奨励賞推薦応募案内

沖縄研究奨励賞は、沖縄を対象とした将来性豊かな優れた研究(自然科学・人文科学・社会科学)を行なっている新進研究者(又はグループ)の中から受賞者3名以内を選考し、奨励賞として本賞並びに副賞の研究助成金50万円を贈り、表彰するものです。応募期間は7月15日～9月30日(当日消印有効)

★沖縄平和祈念堂改修工事に伴うご寄付のお願い

開堂から46年を迎える沖縄平和祈念堂では、現在、経年劣化による改修工事を頻繁に実施しております。今後、さらに工事の必要が考えられますので、多くの皆様にご経費に對するご寄付を賜りますようお願い申し上げます。ご連絡いただきましたら、ゆうちょ銀行専用の振込票を送付させていただきます。また、インターネットを利用してのご寄付も可能です。Syncable(シンカブル)というプラットフォームにアクセスしていただき、団体を探すページから「沖縄協会」で検索してください。

公益財団法人 沖縄協会
【電話番号】03-6231-1433
【FAX】03-6231-1436

川崎沖縄県人会創立100周年

創立100周年を迎えた一般財団法人川崎沖縄県人会(金城宏淳会長)の記念式典が6月9日、川崎産業振興会館で開催された。会場には同様に市制施行100周年となる川崎市の福田紀彦市長、友好都市である那覇市の知念覚市長、渡貝知武豊名護市長、嘉数登宮古島副市長らが参加し、県人会会員や関係者と記念の日を祝った。川崎市には大正初期より紡績工場などの働き手として沖縄から多くの人が移住した。1923年に関東大震災が発生し、川崎在住の沖縄出身者も甚大な被害に遭った。この困難を乗り越えようと同郷者が結束して1924年に同県人会が発足した。

沖縄を描く：沖縄をモチーフにした作品 7

磯の夕暮 大和修治作

大和修治 昭和13年 東京都生

画歴
武蔵野美術大学卒。現代洋画精鋭選抜展銀賞、同金賞、同記念大展入賞。
独立会会友。
額サイズ
号数：F8 縦×横×厚【60×52×5 cm】

